

3rd Futures Session

シニアのアクティビティ向上！

— Thu 15th November 2012



Overview

問題意識

先進国が抱える社会的課題のひとつに少子高齢化があります。そんな中、日本は「高齢化社会先進国」とされ、世界から注目されています。また、国内では民間企業による定年延長や継続雇用制度の取り組みがあるなど、いわゆる「働く世代」の拡大が今後想定されます。例えば、もし日本企業の定年が65歳から75歳になったとき、私たちの働き方や暮らし方はどのように変化するのでしょうか？またそのような変化に対して、企業はどのように対応していけばよいのでしょうか？

第3回 Futures セッションは「シニアのアクティビティ向上」をテーマに、同様の問題意識を共有する花王株式会社（以下、花王）

をメインスポンサーに迎えて開催されました。開催地は「おばあちゃんの原宿」と言われる巣鴨。当日は企業、NPO、社会起業家など、様々なセクターから約50名の方々が参加されました。

高齢化社会先進国の地の利を活かした フューチャーセッションプロセス

セッションは以下のプロセスで実施しました。

Introduction : 花王株式会社による、今回のテーマに関するプレゼンテーション

Inspiration : テーマに関する、日英ゲストを迎えてのゲストトーク

Fieldwork : 巣鴨地蔵通り商店街での昼食を兼ねたフィールドワーク

Café : これまでのプロセスを通して得た気づきや学びの共有とまとめ

Dot Voting : 「アクティブに働き続けるための10の鍵」の選出

Scenario : 「75歳まで働ける、社会と関わっていける時代のシナリオ」の作成

Closing : 花王株式会社による、シナリオの評価と全体振り返り

以降、上記プロセスに沿ってセッションの様子や結果を振り返ります。

INTRODUCTION

今回のセッションオーナーである花王より、セッションテーマ「シニアのアクティビティ向上」に込めた想いについてのプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションでは、「日本は世界に注目される高齢化社会の先進国であること」や、「日本は高齢者の高齢化が進む状況にある」といった社会動向が示されました。さらに、「花王が考える高齢者を見るための3つのポイント」(表1)や、「いきなり新商品を考えるのではなく多様な人々と共に新しい働き方について考えたい」といった花王の想いが伝えられました。

INSPIRATION

おばあちゃんによるおばあちゃんのための孫育てグッズ制作工房、「BABA ラボ」を営む代表の桑原静さん、全世帯でCO₂削減活動に取り組む、鹿児島県出水市六月田下自治会長を務める松田正幸さん、生活のイノベーション創出を促進し社会的課題の解決を目指す、英国のチャリティー団体Nestaの元職員ダレン・バルコムさんの3名より、活動内容や背景、事例などが紹介されました。

桑原 静さん (BABA ラボ代表)

— 孫の面倒を見るときに自分たちが使いやすいような道具をつくる会社

BABA ラボはおばあちゃんによるおばあちゃんのための「孫育て」グッズ制作工房。コンセプトは「100歳まで働けるものづくりの職場」。

— 両親が面倒を見やすい孫育てグッズが世の中になかった

工房設立のきっかけは、自分が使う子育て道具が両親にとって使いにくいものであることに気付いたこと。

ポイント	説明
ひとくくりに見えない	65歳以上をただ「高齢者」として見ない。実際の高齢者は想像するよりもずっと若く元気である。
人とのつながりを考える	社会や家族など、人とのつながりを考えていくことが重要。例えば65歳は会員の定年時期であり、つながりが大きく変化する。
意義・意味ある人生の送り方を考える	どんなに精神的に若くとも、生物としての加齢とそれに伴う身体的な衰えには誰も抗えない。これを自分自身のこととして扱い、考える。

表1：花王が考える「高齢者を見るための3つのポイント」

— みんなが役割と収入を得る仕組みが働く喜びと継続性につながる

工房では誰が来ても、どんな能力でも必ず何かしら作業が出来るよう作業を細かく区切り、作業単位でお金を支払っている。

松田 正幸さん (鹿児島県出水市六月田下自治会長)

— 全世帯でCO₂削減に取り組む自治会自治会の全世帯でエコ活動を実施。平成18年度からCO₂削減活動に取り組み、以来10%削減達成を継続。

— 短期的結果を出すものではない、楽しめるような活動にしよう

各家庭ごとのエネルギー消費通知表やエコ達人制度など、住民が楽しめるような活動にすることを肝に銘じている。

— 準グランプリを受賞、地域の課題解決にも着手

「低炭素地域づくり全国フォーラム—低炭素杯2011—」では環境大臣賞準グランプリを受賞。耕作放棄地対策にも着手し始めた。

ダレン・バルコムさん (元Nesta職員)

— 個人や組織をサポートし生活にイノベーションを起こす

Nestaは英国のチャリティー団体。イノベーションの創出を促進することを通して、環境的、社会的課題の解決に取り組んでいる。

— 上手く年を取っていくための3つの問いかけ

上手く年を取っていくために3つのポイントがあると考え。それは「参加できますか?」「貢献できますか?」「つながり続けていられますか?」。

— その人は何が出来るのか?を考える・知ること

高齢者のニーズや支援を考えるのと同じように、その人は何が出来るのか?ということを考える・知ることが大切である。



FIELDWORK

少人数のチームに分かれ、昼食を兼ねた巣鴨地蔵通り商店街のフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、事前にご許可を頂いている店舗に訪問したほか、複数店舗への飛び込み訪問を行うチームがあるなど、積極的な調査が行われました。

訪問した店舗

東京すかも園：開運塩大福が名物の御菓子司・お食事処。

喜福堂：あんぱんが名物のパン屋。

眼鏡工房久保田・時計工房久保田：先代が時計店、当代がこだわりの眼鏡店を営む。

アルプスカフェ：2001年リニューアルし二世代で働くイタリアンカフェ。

ときわ食堂：商店街に二店舗を構える人気定食店。
手打ちそば菊谷：先代がテラー。当代が蕎麦屋を開業。

CAFÉ

フィールドワークを行った結果をチームごとに振り返り、ユーザーボードを作成しました。ユーザーボードとは、フィールドワークで印象に残った人物像をまとめたものです。次に、ワールドカフェを行い、他チームのユーザーボードを共有しました。最後に、これまでの気付きや学びから各チームで「(高齢者自身や高齢者の家族が)アクティブに働き続けるための5つの鍵」を導き出し、全チームで合計45の鍵を作成、これをセッションの中間成果物としました。

DOT VOTING

各チームが作成した「アクティブに働き続けるための5つの鍵」について、参加者一人ひとりが5票を持って主観投票を行いました。投票結果の上位10個を「アクティブに働き続けるための10の鍵」として選出しました(表2)。



巣鴨地蔵通り商店街のフィールドワーク

鍵のタイトル	説明
巣鴨ルール	おもてなしの気持ちを持つ、お客様と対話する、スローな時間を大切にすること。
ときめき	75歳になっても出会いや恋を望むこと。
惚れる	自分に、まちに、仕事に、家族に惚れること。
世代の役割 MIX	高齢者はアドバイザー役、若者は新しいものを持ち込む役など、うまく役割分担し多世代が共存すること。
自慢できる地域	地域に対する思い入れがあること。例えば「巣鴨」。
成長でなく持続	積極的に地元で買い物をしてコミュニティに貢献する、という意識を持つこと。
ギブアンドテイク	元気や情報を店(地域住民)とお客様(観光客など)が交換する関係があること。
コミュニケーションの省力化をやめる	無駄話や長話はポジティブ要因。お客様に支えられているという実感があること。値切り交渉ができること。
自然体	背伸びしすぎないこと。毎日できること。地元の人と外部から来た人がうまく混在していること。大家族のようなほのぼのとした町であること。
適度なおせっかい	ご近所付き合いが盛ん。その延長線上で隣の家の子どもにアドバイスするなど、適度なおせっかいの関係がある。

表2：アクティブに働き続けるための10の鍵

SCENARIO

「アクティブに働き続けるための10の鍵」とフィールドワークでの知見を踏まえ、9つのチームに分かれて「75歳まで働ける、社会と関わっていける時代のシナリオ」を作成しました。シナリオは、10の鍵が実現することによって「社会がこうなっていくといいな」という理想的な物語であると同時に、「この物語をビジネスやイノベーションの力を使ってどのように実現していくのか」という物語でもあることを意識して作

成しました(表3)。作成したシナリオは、チームごとに即興劇形式で発表しました。

CLOSING

セッションのメインスポンサーである花王株式会社が、事業者視点でシナリオを評価しました。評価は、花王社員によるFutures発行の小切手を使った投資形式で行いました。評価にあたっては、花王が目指す将来の社会像に見合うと思われる、シ

ナリオに沿った社会を作っていく活動に企業として賭けてみたい、を主な価値観としました。

最後に、「今回のセッションを通じてこれまでの自分と明日からの自分がどのように変わったか」について、一人ひとりのコメントを全員で共有し、セッションを締めくくりました。



2 回目の思春期を味わえる (もう一度青春を味わえるような) 社会

店主を引退し息子に店を継がせるにあたり、全ての仕事を任せず、出来る仕事、得意な仕事を分担する。これにより自身の健康と店の新陳代謝の両立を実現する。

みんなが役に立てる社会

効率を度外視し、お客様との時間をかけたコミュニケーションを取る事によって、店と客の関係を越えた、新たな関係性が生まれる可能性が高まる。

新しい才能が開花する社会

定年を迎えた従業員を再雇用、非効率的な接客を容認する。結果、まちの人と人をつなぐ存在としての新たな才能が発揮され、そこに新たな役割が生まれる。

人としゃべることで世代がつながる社会

値札がついていないメニューを用意することで、店員と客とがコミュニケーションしなければならない状況を意図的に作り出す。世代を超えた会話の大切さを商売に組み込む。

キャリアも世代も持続する社会

息子が店を継ぐにあたって、父親は地域商圏の既存顧客を、息子は地域外商圏の新規顧客開拓を担当する。安定した事業基盤の上で息子は時代に見合った変化を続ける。

いつまでも自分が主役の社会

老舗店主が考案した文化継承を意識した新商品を開発したが失敗。しかし、ある客の助言から海外販売を行い成功する。時代の変化を捉えた発想力は年齢を超えて活躍の場をもたらす。

いつまでも働ける、があたりまえな社会

地域にある少量多品種の仕事を紹介する「地域のコミュニティハローワーク」を作る。結果、いつまでも働けることが当たり前の社会が生まれる。

思えば思われる “Happy しゃれこうべ” な社会

まちに、仕事に、家族に惚れながら働く。死後を含めて世代を意識する。結果、自然と世代を超えて想いを共有し、事業を継続できる環境が生まれ、受け継がれていく。

スローな時間をクリエイイトする餌付けプロジェクト

店にイートインスペースを作り、ゆったりとした時間を過ごしてもらう。若い従業員を雇用し、世代間コミュニケーションを楽しんでもらう。ひいては、地域コミュニケーション全体の活性化につながる。

表3：75歳まで働ける、社会と関わっていける時代のシナリオ



Spotlight

今回のセッションのテーマは「シニアのアクティビティ向上—高齢者も楽しく働いて、世代を超えてつながりあえる社会構築に向けて」でした。参加者は対話やワークを通じて、テーマが実現している社会の姿（将来ビジョン）と、それに至るプロセス、実現に必要な仕組みや制度のアイデアを生み出しました。今回のセッションによって、シニアのアクティビティ向上を考えるうえで重要な視点が見えてきました。

個々の出来ることに注目し引き出すこと、それらを実行できる場をつくること

高齢者はコントリビューター（社会に寄与する存在）であり、今後の社会をよりよくするキープレイヤーである、という視点を持つことができました。また、高齢者が困っていることや出来ないことにだけ注目するのではなく、高齢者の「出来ること（知恵

や能力）を引き出すこと」にも注目することの重要性に気付くことができました。加えて、「高齢者という大きなくくりではなく個々をしっかりと見ること」や、「高齢者が活動しやすい雰囲気や場づくりを行うこと」といった、経験に基づく知見も共有することができました。

日常的に多世代交流の機会があること、そこでのコミュニケーションが豊富であること

巣鴨地藏通り商店街でのフィールドワークでは、先代と当代、当代と次代、大学生の店員と高齢者の来店客、隣の店の孫と自分の店の祖父、といったように、暮らしの中に世代を超えた交流機会が自然な形で組み込まれていることと、その関係性自体が貴重な資源である、という視点を得ることができました。そして、この関係性のもと行われるコミュニケーションはゆったり、の

んびりとしたペースで繰り広げられるべきものであり、効率の観点からは相反する価値観を持った存在として人々の暮らしに位置づけられていることがわかりました。

これらの視点は、シニアのアクティビティ向上を考えるうえで重要となるほか、高齢化社会におけるコミュニティデザインの要点を示しているともいえるのではないのでしょうか。

デザイン : hereticanthen co.,ltd.

発行 : プリティッシュ・カウンシル / 株式会社富士通研究所 / 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) / 株式会社フューチャーセッションズ

協力 : 花王株式会社、巣鴨地藏通り商店街振興組合 (www.sugamo.or.jp)

2013年3月1日発行 本書の無断複写・複製・転載を禁じます

© 2013 British Council, Fujitsu Laboratories Ltd., Center for Global Communications, International University of Japan, Future Sessions



GLOCOM

